



希望学プロジェクト特別寄稿

第5回 加瀬和俊さん

漁業の過去・現在・明日

釜石漁業の伝統

三陸海岸は入江が静穏域を作って天然の良港として利用できたこと、豊かな森がその養分を海に注ぎ続け沿岸域に多くの地先資源を育ててきたこと、海流が季節ごとに回遊する魚を運んできたことなどによって、日本でも有数の好漁場となっている。この自然条件は日本列島が出来上がって以来のものであるから、釜石の漁業も長い歴史を持っている。耕地が少なく、たびたび凶作に襲われたこの地方では、海の恵みを分け合って地域の人々の生きる糧とする仕組みがそれぞれの時代に作られていた。

海は恵み手であると同時に、津波や嵐によってたくさんの命を奪うこともあり、人びと

は海の動きと折り合いながら生活する習慣を作ってきた。貝塚の時代から今日まで続く海の利用の日常の中で、人々が感じた海への親しみと恐れは、数々の民話によって伝えられている。

漁業は変わる

漁業を取り巻く人間関係は、時代とともに変化し、今もまた変わりつつある。戦前には動力船を使う漁業や大規模な定置網は、地元外の資産家が経営し、地元の人々はその配下として働いていたが、戦後は漁業権の解放と動力漁船の価格低下によって家族経営と漁業者の集団経営がこれ置き代わった。また、海の恵みを利用するだけの時代から、資源を養殖によって作りだす時代に進んできた。養殖品目

の選択では、全国的にはブリ、タイなどが広がり、近隣ではサケ養殖が急増した時期もあったが、釜石では餌を与えない魚類養殖は避けて、ワカメ・コンブ・ホタテ・カキなど、自然が育てる養殖業に限定して投資規模の拡大を避け、多くの漁業者の働き場を維持してきた。出稼ぎ地帯が地元には確かな産業を持つために、それは大きな知恵であった。

世界の中の 釜石漁業

2000海里体制（1977年）によって釜石の遠洋漁業は衰退したが、遠洋漁船がとれなくなったサケは大量に母川に回帰できるようになり、定置網経営は好転して地元の人々の就業の場は拡大した。今日では北京オリンピック景



Profile かせ・かずとし

1949年生まれ。東京大学社会科学研究所教授。専攻は日本経済史、水産経済学。著書『沿岸漁業の担い手と後継者』『集団就職の時代』『戦前日本の失業対策』など。



気にも刺激された中国へのサケ・アワビ輸出の増加が、地元の加工業を素通りしつつ、浜値の上昇をもたらしている。韓国・中国からのワカメなどの輸入の関係で三陸ブランドの盛衰は、貿易検疫制度の緩厳や世界的食糧価格上昇とも直結しており、原油価格上昇にともなう世界大での漁業者の異議申し立てとも関連して、釜石漁業も国際情勢の波にもまれている。海は世界につながっており、海に生きる人々の将来は世界の動きと直結している。

**海をめぐる
人間関係**

釜石の漁業は、定置網経営が漁協によって営まれている以外は、基本的に家族単位でなされている。養殖業、採取漁業（アワビ、ウニ）、沿岸漁船漁業の三つがその内容であり、専門的な漁家の生活リズムは季節ごとの生産物によって決められている。

漁業で生活を立てている専門家と、製鐵所勤務などを主としていた副業者との利害差は、鉾（きりぎりす）の捨て場としての漁場の埋め立てや港湾開発など、

地域経済振興のための沿岸域の利用構想をめぐって、専門漁民、兼業漁民、漁業外の人々のそれぞれを、異なった立場に立たせることがあった。製鐵所勤務の兼業組合員が急減し、湾口防波堤が完成を見た今日、海をめぐる地域の人々の関係は新しい時代を迎えている。

自律と協調

農地とは異なって海は個人のものではない。そこにおいて秩序をもって漁業を営むためには、誰が、どれだけの規模で、どのような方法で海を利用できるのかの規則が必要である。法律の範囲内で漁協が定めるその規則には、海をめぐる理念と現実とが端的に反映している。

試みにアワビの採取方式を見れば、少数の人が効率的に漁獲する方式と多数の人が非効率的に漁獲する方式の全国的な併存状況の下で、釜石では効率的なアクアラング潜水法も、中間的な素潜り法も



禁じて、船上からカギ針とする方式が年間数日間の口開け日にだけ容認されており、多数の人々の参加と資源保護がそれによって確保されている。規則の内容は時代とともに動かざるを得ないが、ここに見られる地域の自律と協調は、性急な効率性を求める時流を抑えて、地域の存続のための保証として機能している。

**地域の
産業としての展望**

自然を活用した一次産業は、二次産業・三次産業に比較して自然の影響に翻弄されやすく、労働もきつい。後継者不足・高齢化が釜石の漁業についても指摘されているが、変動する環境に対応している地域の自律的産業として沿岸漁業に期待されるものは大きい。家業として海に生きる人々の日常的な自足と意思が、引き続き地域産業の確かな希望を支えられるように、漁業者集団を含む釜石市民の役割は大きい。